



農業用水を活用した防災力強化の取組

たきちょうせいわ

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

たきちょう

- 当地域では、立梅用水土地改良区の5集落とこれとは異なる利水からなる5集落が多面的機能支払の活動組織を構成し活動を実施。
- 立梅用水は古くから農業用水としてだけでなく、生活用水としても活用されているが、近年、異常豪雨の多発により、降雨を分散して河川へ安全に流出させる承水路としての機能も果たしている。
- 冬期には維持用水としての通水があり、年間を通して流水があることから、火災時の消火用水とするなど、地域の防災力向上に活用されている。

【地区概要】

- ・取組面積 700ha（田480ha、畑220ha）
 - ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
 - ・主な構成員
農業者、営農組合、自治会、改良区、学校・PTA、図書館 等
 - ・交付金 約21百万円（H29）
- 〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

施設の保管理体制



水士里サポート隊
（農家・非農家を
含む12名で構成）

施設の
点検・機能診断



- 土地改良区の職員を中心に「水士里サポート隊」を結成し、施設の機能診断・補修や、水士里情報を活用した保全プランの作成、農村環境保全活動等、様々な取組へのサポートを実施。

防災用水としての役割



承水路としての機能
（放水ゲートの操作）

立梅用水を活用した
消火訓練



- 多面的機能支払交付金を活用した防災の取組
 - ・立梅用水を活用した消防利水
 - ・立梅用水を利用した消火訓練（消防団、住民、消防署）
 - ・消防署による水利点検（消防署と協定）
 - ・行政と連携しイベントの際に防災・啓発活動
 - ・行政と連携しケーブルTVによる防火水利情報の提供
 - ・NTTドコモ通信による立梅用水の水位水量情報の提供
 - ・改良区を通じて洪水時の雨水処理のゲート可動研修

今後の課題

- 防災情報と水利システム情報の連携利用により行政、消防署、消防団などとの情報共有が迅速になった。今後は、広範囲な情報発信を通じた地域全体での情報共有が必要。
- 近年、自然災害等が多発していることも踏まえ、関係機関、行政と地域住民の連携により、農業用水路の防災機能について情報発信し、最大限に活用していく。